

# 養豚基礎調査全国集計結果

平成17年度

社団法人 日本養豚協会

平成17年度調査は、経年変化を見るための定型設問のほか、調査の主眼として生産コスト、給与飼料（リサイクル飼料）、家畜環境及び将来の組織について集計しました。

回答数は集計項目により異なりますが、クロス集計における対象項目の記録漏れによるものです。

この印刷物は主要項目について、全国集計したものです。都道府県毎の集計結果は各県養豚協会に保管してありますので、関心のある方はご照会ください。

今回の調査実施当たり、回答にご協力くださった方々、又調査の指導、調査票の回収にご尽力くださった方々に深謝申し上げます。

## 調査結果の概要

### 1. 調査回答状況について

本年度の調査対象経営戸数は、平成17年8月1日現在の全戸数7,731戸を対象に調査を行い、5,214戸（無記入等を含む）で回答率は67.4%である。平均年齢は57.3歳である。

### 2. 飼養頭数について

種雌豚の全頭数は680,653頭で、そのうち純粋種は96,004頭（14.1%）、種雄豚の全頭数は44,108頭で、そのうち純粋種は38,172頭（86.5%）である。

種雌豚の品種割合はランドレース種21.4%、大ヨークシャー種17.4%、バークシャー種45.7%である。肉豚の出荷状況を見ると出荷日齢194.3日、出荷時生体重112.6Kg、枝肉重量73.4Kgであった。

### 3. 養豚経営について

養豚経営の労働形態は、家族経営78.2%、会社経営17.6%で前年比2ポイント減（80.2%）、1.7ポイント増（15.9%）であった。経営タイプは一貫経営73.9%で前年と同傾向である。

### 4. 人工授精実施状況について

人工授精を導入・実施している経営者は、人工授精のみ＋自然・人工併用が31.8%であり、前年より3ポイント増であった。子取り用雌規模別では500頭以上で85.5%が人工授精を導入・実施している。

### 5. 種雌豚の繁殖成績について

全国平均の1腹当たり産子数は、純粋種（L、W）10.2頭、交雑種（LW、WL）10.6頭で両者とも前年比0.1ポイント増、海外ブリッドは10.9頭であった。

1腹当たり離乳頭数は、純粋種（L、W）9.1頭、交雑種（LW、WL）約9.3頭、海外ハイブリッド9.7頭であった。

### 6. 事故率について

離乳から出荷までの事故率は7.4%で前年比1.8ポイント悪くなった。その主要因は呼吸器疾患が約80%を占めている。

### 7. 生産コストについて

豚舎施設における「子取用雌豚1頭当たり」平均電気料は1,320円である。また、糞尿処理施設における「子取用雌豚1頭当たり」平均電気料は866円である。

### 8. 給与飼料（リサイクル飼料）について

現在、リサイクル飼料（食品残さ飼料）を利用している17.3%、利用を検討している8.3%であった。原料の主な入手先は、食品工場42.9%、レストラン等44.9%が主体であった。今後の利用意向については、利用を拡大17.7%、現状維持75.8%である。

### 9. 家畜環境について

堆肥生産量は全国平均37.1t/1ヶ月、販売については145円/1袋（10Kg）、ばら売りでは約3,600円/2t車となっている。

### 10. 将来の組織について

新組織が設立された場合、参加する26.7%、どちらともいえない51.1%、参加しない22.2%であった。子取り用雌豚規模別では大規模ほど参加するが増加している。

## I. 調査に対する回答状況について

平成17年8月1日現在、全養豚経営戸数(経営者)7,731戸(養豚動向調査)を対象に、調査を実施した。

地域	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
回答数(人)	4,772	902	1,288	140	310	86	322	1,724	
性別 (人)	男	4,604	874	1,262	138	305	81	317	1,627
	女	168	28	26	2	5	5	5	97
平均年齢(歳)	57.3	56.0	56.7	9.3	56.8	59.5	57.2	58.4	

回答者数は、5,214戸(無回答等戸数含む)で調査戸数の67.4%の回収率である。このうち女性は168名であった。平均年齢は、全国平均57.3歳、平成16年度は57.0歳である。

## II. 飼養頭数について

### II.1.1 肉豚の出荷状況 地域別

		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
肉豚出荷 (日)	平均値	194.3	185.0	187.4	185.1	191.3	193.4	191.6	207.1
	最大値	360.0	250.0	280.0	220.0	250.0	240.0	270.0	360.0
	最小値	150.0	150.0	150.0	150.0	158.0	160.0	150.0	150.0
	回答者数	3,978	724	1,119	132	295	75	266	1,367
肉豚出荷時 (kg)の 生体重	平均値	112.6	113.6	112.8	112.3	112.6	114.0	112.1	111.9
	最大値	150.0	140.0	135.0	125.0	130.0	130.0	135.0	150.0
	最小値	90.0	100.0	96.0	100.0	100.0	100.0	90.0	90.0
	回答者数	3,921	702	1,105	123	285	74	267	1,365
枝肉重量 (kg)	平均値	73.4	73.7	73.8	73.3	73.6	75.3	72.5	72.9
	最大値	105.0	105.0	85.0	78.0	85.0	85.0	90.0	90.0
	最小値	60.0	60.0	60.0	65.0	60.0	62.0	60.0	60.0
	回答者数	3,966	717	1,127	132	293	73	260	1,364

肉豚出荷日齢は、全国平均194.3日齢であるが、地域別では北地域より南地域の方が日齢が長い傾向にある。

肉豚出荷時の生体重は、全国平均112.6Kgである。地域別でもほぼ同様の傾向である。

枝肉重量は、全国平均73.4Kgである。地域別でもほぼ同様の傾向である。

### 規模別

		全体	～19頭	20～49頭	50～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1000頭～
肉豚出荷日 (日)	平均値	193.7	199.4	198.8	194.1	190.0	188.2	186.2	189.1
	最大値	360.0	300.0	360.0	300.0	260.0	260.0	240.0	259.0
	最小値	150.0	150.0	155.0	150.0	150.0	155.0	160.0	160.0
	回答者数	3,527	439	725	949	768	418	134	94
肉豚出荷時 (kg)の 生体重	平均値	112.6	111.8	112.6	112.6	112.7	113.2	113.3	112.5
	最大値	150.0	150.0	140.0	130.0	125.0	125.0	130.0	125.0
	最小値	90.0	90.0	90.0	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	回答者数	3,467	425	713	927	761	414	133	94
枝肉重量 (kg)	平均値	73.3	73.1	73.4	73.3	73.3	73.5	73.2	72.9
	最大値	95.0	90.0	95.0	90.0	80.0	85.0	85.0	78.0
	最小値	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	65.0	65.0	64.0
	回答者数	3,511	436	719	943	769	416	134	94

規模別にみると、肉豚出荷日齢は、大規模になる程、早く(約10日間)出荷されている。

出荷体重、枝肉重量はともに大きな差はない。

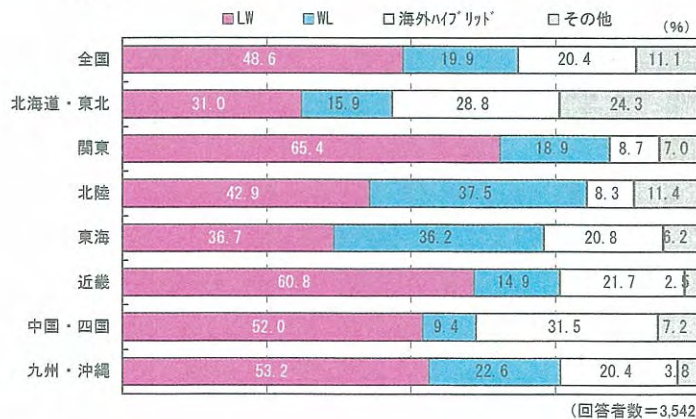
### II.1.2 品種別子取用雌豚頭数内訳

#### 純粋種



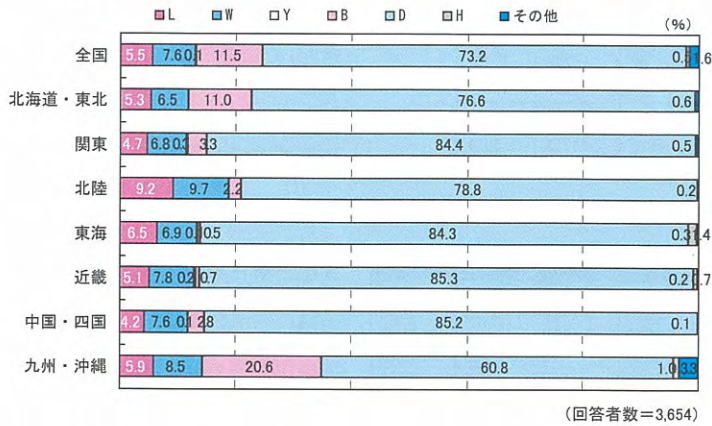
肉豚生産の基幹品種であるランドレースが前年比で2.9%減となった。他の品種においてはほぼ横ばいである。なお九州・沖縄では、パークシャー種が高品質豚肉の人気もあり前年同様高く、68%を占めている。

#### 交雑種



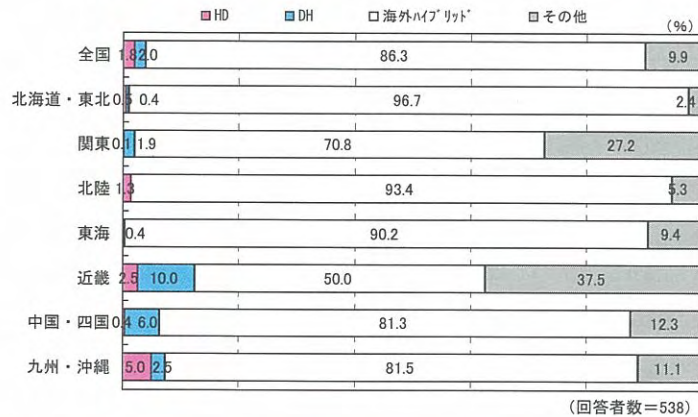
肉豚生産・三元交雑種のF1母豚として、前年度同様LW、WLが約70%を占めている。しかし、地域別に見ると、地域の特徴を生かした品種構成になっている。

II. 1. 3 品種別種雄豚内訳  
純粋種



肉豚生産体制のなか、止め雄としてデュロック種が73.2%を占めている。  
前年度と比較すると、全国ではほぼ同様な傾向であるが、地域別に見ると、九州・沖縄のパークシャー種が20.6%(前年度26.7%)で6.1ポイント減となった。

交雑種



交雑種雄豚は、海外ハイブリッドが86.3%を占めている。

飼養頭数のまとめ

	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
純粋	子取り用雌豚	96,004	15,630	15,407	2,304	3,573	376	2,294
	種雄豚	38,172	6,268	10,244	1,014	2,308	434	1,947
	小計	134,176	21,898	25,651	3,318	5,881	810	4,241
交雑	子取り用雌豚	584,649	168,557	149,062	12,345	37,532	5,942	41,145
	種雄豚	5,936	2,239	699	76	266	40	788
	小計	590,585	170,796	149,761	12,421	37,798	5,982	41,933
計	子取り用雌豚	680,653	184,187	164,469	14,649	41,105	6,318	43,439
	種雄豚	44,108	8,507	10,943	1,090	2,574	474	2,735
	小計	724,761	192,694	175,412	15,739	43,679	6,792	46,174

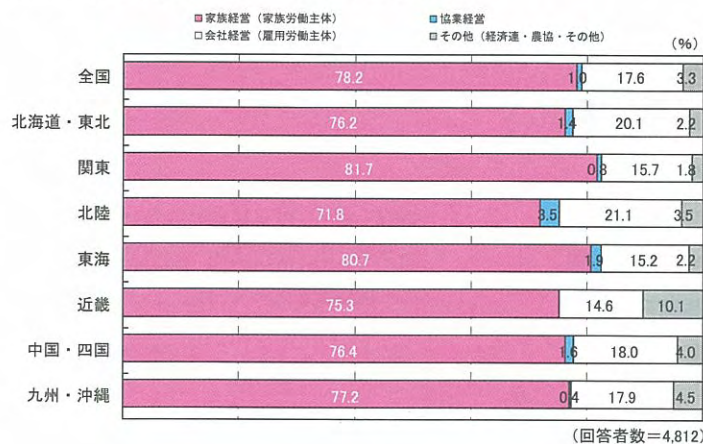
純粋の子取り用雌豚頭数は、全国で約96,000頭、種雄豚は約38,200頭である。

雄対雌は、約1:15である。

III. 経営関係について

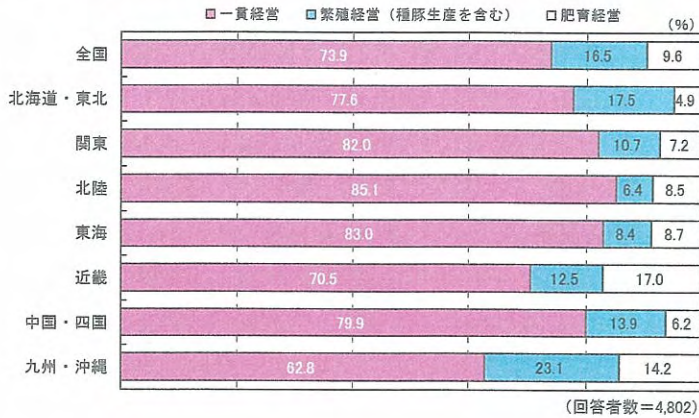
III. 1 (全員の方へ)あなたの経営について、ご記入ください

III. 1. 1 あなたの養豚経営は次のどれに当てはまりますか



養豚経営の労働形態は、家族経営が78.2%、会社経営17.6%であった。  
昨年( )内と比較すると、家族経営が2ポイント(80.2%)の減、会社経営が1.7ポイント(15.9%)の増であった。

Ⅲ. 1. 2 あなたの経営タイプは次のどれに当てはまりますか



経営タイプは、昨年とほぼ同様の傾向で、一貫経営が約74%であった。

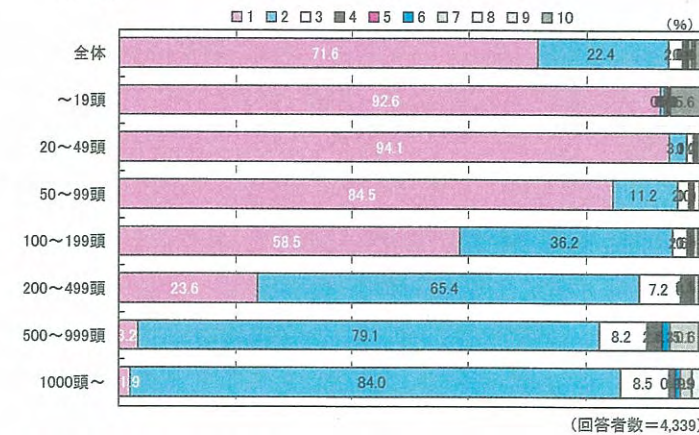
Ⅲ. 1. 3 あなたの経営する農場は、次のどれに当てはまりますか(○印は1つ)  
地域別



- 1 個人経営の農場
- 2 株式会社、有限会社、合資会社
- 3 農事組合法人
- 4 農協等の直営農場
- 5 農協等の預託農場
- 6 農協等の資本参加による農場(子会社)
- 7 企業等の直営農場
- 8 企業等の預託農場
- 9 企業等の資本参加による農場(子会社)
- 10 その他

養豚経営の形態別に見ると、個人経営69.3%、株式会社等が22.2%で両者で全体の約92.0%を占めている。

規模別

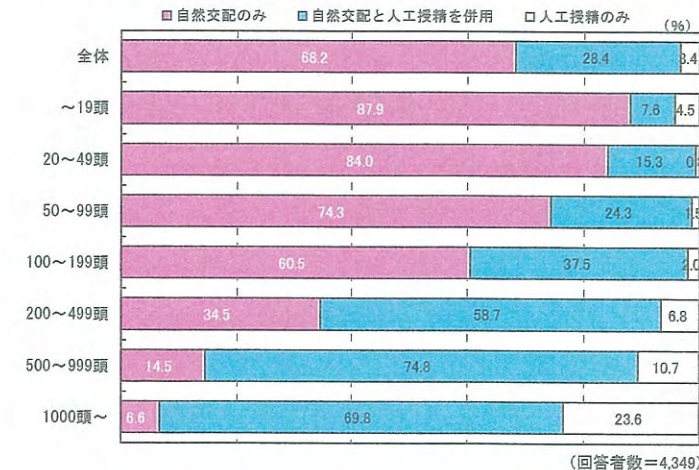


- 1 個人経営の農場
- 2 株式会社、有限会社、合資会社
- 3 農事組合法人
- 4 農協等の直営農場
- 5 農協等の預託農場
- 6 農協等の資本参加による農場(子会社)
- 7 企業等の直営農場
- 8 企業等の預託農場
- 9 企業等の資本参加による農場(子会社)
- 10 その他

子取り用雌豚頭数規模で100頭以上から株式会社等の割合が高くなり、1,000頭以上は84%となっている。

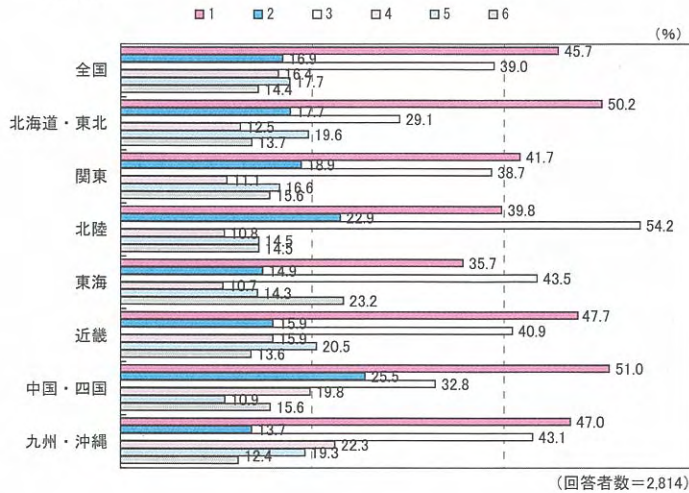
Ⅲ. 2 交配について、お伺いします

Ⅲ. 2. 1 (全員の方へ) 交配の方法について(○印は1つ)  
規模別



子取り用雌豚頭数規模で小規模ほど自然交配の割合が高く、大規模ほど併用型が高い。(約70%)  
また、人工授精のみは1,000頭以上で約24%である。

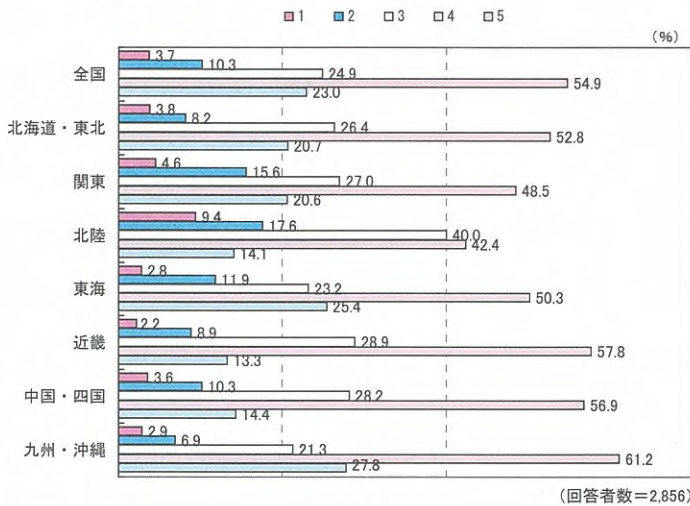
Ⅲ. 2. 2 (自然交配のみを回答された方)あなたが人工授精を実施しない主な要因は何ですか(複数回答)  
地域別



- 1 技術的に困難(受胎率の低下等)
- 2 繁殖成績が低下する(産子数の減少等)
- 3 母豚規模的にメリットがない
- 4 人工授精器具の導入に経費がかかる
- 5 人工授精師の免許がない
- 6 その他

人工授精を実施しない主な要因は、技術的に困難が45.7%、母豚規模的にメリットがないが39.0%で約85%を占めている。

Ⅲ. 2. 3 (自然交配のみを回答された方)あなたは将来、人工授精を導入しますか(○印は2つ)  
地域別



- 1 導入するため、既に準備を進めている
- 2 導入について、検討を行っている
- 3 機会があれば、導入について検討したい
- 4 導入は全く考えていない
- 5 分からない

将来、人工授精の導入を既に準備している及び検討を行っているが14.0%に対して、導入は全く考えていないが55%である。地域別に見ても同様の傾向である。

Ⅲ. 3 (子取り用雌豚を飼養している方へ)繁殖成績について、お伺いします

Ⅲ. 3. 1 繁殖成績について、各欄にご記入ください

1腹当たり平均哺乳開始頭数

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレース(L)	10.3	10.4	10.4	10.6	10.0	10.4	10.6	10.1
大ヨークシャー(W)	10.2	10.4	10.3	10.2	10.2	11.4	10.5	10.1
中ヨークシャー(Y)	9.7	—	9.6	—	—	—	10.0	—
ハーグシャー(B)	8.1	8.0	8.0	8.4	6.4	9.0	8.5	8.1
デュロック(D)	9.1	9.1	9.0	9.6	9.3	9.5	9.5	9.0
ハンブシャー(H)	8.9	12.0	7.5	—	—	—	12.0	8.6
LW	10.6	10.7	10.6	10.8	10.6	10.4	10.7	10.4
WL	10.6	10.9	10.6	10.7	10.4	10.5	10.7	10.4
海外ハイブリッド	10.9	11.1	10.9	10.9	10.9	10.2	10.7	10.8
その他	10.1	11.1	10.1	9.9	10.3	10.0	10.5	9.3

昨年との比較では、ほぼ横ばいの成績であるが、九州・沖縄のランドレース、大ヨークシャーが僅かに増加(0.4、0.3ポイント)している。

1腹当たり平均離乳頭数

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレース(L)	9.1	9.3	9.1	9.3	8.8	9.4	9.4	8.9
大ヨークシャー(W)	9.1	9.3	9.2	9.0	9.0	9.7	9.2	8.9
中ヨークシャー(Y)	8.7	—	9.0	—	—	—	8.0	—
ハーグシャー(B)	7.1	6.9	7.0	7.6	6.3	8.5	7.5	7.1
デュロック(D)	7.8	7.7	7.5	8.1	7.7	8.9	8.2	8.0
ハンブシャー(H)	7.8	10.0	6.5	—	—	—	10.0	7.6
LW	9.3	9.6	9.3	9.5	9.2	9.1	9.4	9.2
WL	9.4	9.7	9.3	9.3	9.2	9.2	9.5	9.3
海外ハイブリッド	9.7	9.9	9.6	9.7	9.6	9.2	9.5	9.6
その他	8.8	9.7	8.8	8.8	9.2	8.5	9.1	8.0

昨年との比較では、ほぼ横ばいの成績である。

哺乳開始から離乳までの平均育成率

(%)

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレス(L)	88.5	89.8	88.2	87.6	87.3	90.4	89.8	88.3
大ヨークシャー(W)	88.5	89.7	89.2	87.9	87.4	85.1	88.8	88.1
中ヨークシャー(Y)	90.8	—	92.2	—	—	—	86.0	—
パークシャー(B)	87.5	85.7	87.3	91.2	98.4	94.4	90.1	87.6
デュロック(D)	86.1	84.3	84.4	87.4	84.7	95.5	86.7	88.8
ハンプシャー(H)	86.6	80.0	90.5	—	—	—	75.0	87.8
LW	88.6	89.4	88.3	88.2	88.0	87.8	88.3	88.8
WL	89.0	88.8	89.0	88.6	88.9	88.1	88.8	89.4
海外ハイブリッド	88.8	89.7	88.1	87.8	87.9	89.5	89.1	88.3
その他	87.3	87.0	87.4	89.0	90.6	82.7	87.2	86.9

昨年との比較では、ほぼ横ばいの成績である。

受胎率

(%)

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレス(L)	88.0	87.1	86.8	90.2	82.5	82.9	89.6	88.0
大ヨークシャー(W)	87.6	88.4	88.1	87.4	84.7	83.8	89.3	87.9
中ヨークシャー(Y)	92.9	—	91.9	—	—	—	95.7	—
パークシャー(B)	86.9	87.4	83.8	90.5	100.0	95.0	88.6	87.0
デュロック(D)	86.5	84.4	87.4	90.4	80.1	90.0	89.5	86.7
ハンプシャー(H)	90.4	90.0	99.0	—	—	—	80.0	90.6
LW	87.5	88.8	87.2	87.7	86.1	85.4	87.9	87.5
WL	87.8	89.4	87.9	86.4	87.2	85.8	88.8	87.4
海外ハイブリッド	90.5	88.5	87.7	88.6	88.0	225.5	88.9	87.0
その他	85.9	84.3	86.0	78.9	86.7	87.5	89.9	85.6

昨年との比較では、ほぼ横ばいの成績である。

母豚の分娩回転数

(回)

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレス(L)	2.1	2.1	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1
大ヨークシャー(W)	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	1.9	2.2	2.1
中ヨークシャー(Y)	2.2	—	2.1	—	—	—	2.2	—
パークシャー(B)	2.1	2.1	2.0	2.2	1.8	2.3	2.1	2.1
デュロック(D)	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1	2.2	2.1	2.1
ハンプシャー(H)	2.1	2.2	2.1	—	—	—	2.0	2.0
LW	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1
WL	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.0	2.2	2.2
海外ハイブリッド	2.3	2.3	2.2	2.3	2.3	2.1	2.3	2.2
その他	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.0	2.2	2.1

昨年との比較では、ほぼ横ばいの成績である。

III. 3. 2 (全員の方へ) 事故について、お伺いします

離乳後から出荷までの事故率

(%)

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
平均 H17年度	7.4	5.9	7.4	5.8	6.9	5.8	7.1	8.5
H16年度	5.6	4.9	5.6	4.6	5.5	4.3	5.8	6.0

前年に比較して、1. 8ポイント増加した。

③(全員の方へ) ②の主な要因について、お伺いします(○印は2つ)



(回答者数=3,843)

肉豚の主な死亡事故の要因は、呼吸器疾患が79. 9%、消化器疾患が32. 1%で、呼吸器系による事故率が最も高かった。地域別に見ても同様の傾向である。

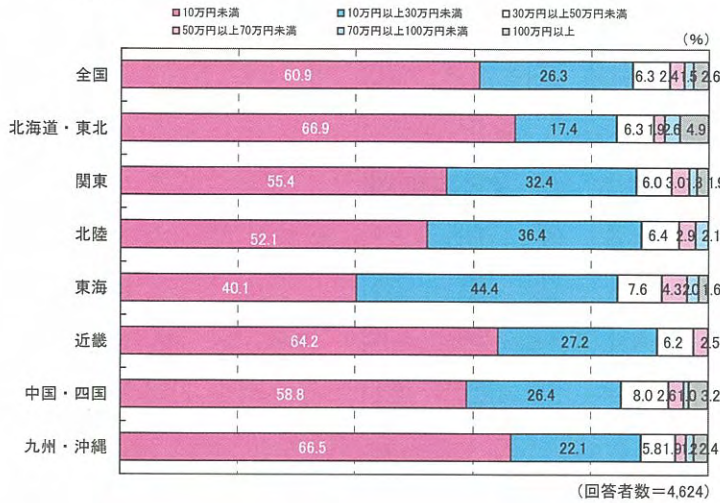
IV. あなたの経営の生産コスト関係について、お伺いします

IV. 1 (全員の方へ)あなたの電気料コストについて、お伺いします

IV. 1. 1 あなたの豚舎施設における、主な電気料コストについて、お伺いします(○印は2つ)

○1ヶ月の電気料金を次からお選びください

地域別



電気料金は、10万円未満が60.9%、10～30万円未満が26.3%で全体の87.2%を占めており、30万円～50万円未満が6.3%である。地域別に見ると、30万円以上になると地域差は小さくなっている。

規模別

(子取用雌豚1頭当たり月額 単位：円)

全体	～19頭	20～49頭	50～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1000頭～
1,320	11,268	3,274	1,950	1,469	1,224	1,020	406

豚舎等施設においては、子取用雌豚1頭当たり1ヶ月の電気料金を表にしたものである。

IV. 1. 2 あなたの汚水処理施設における、主な電気料コストについて、お伺いします

(契約が①と②別の方について、○印は2つ)

IV. 1. 2. 1 1ヶ月の電気料金を次からお選びください



電気料金は、10万円未満が65.4%、10～30万円未満が25.8%で全体の91.2%を占める。30万円～50万円未満が4.6%である。地域別に見ると、30万円以上では4～5%であり、地域差は小さくなっている。

規模別

(子取用雌豚1頭当たり月額 単位：円)

全体	～19頭	20～49頭	50～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1000頭～
866	11,821	3,867	1,713	1,211	792	427	318

汚水処理施設等の子取用雌豚1頭当たり1ヶ月の電気料金を表にしたものである。



IV. 2 (全員の方へ)あなたの分娩舎等の暖房について、お伺いします  
 IV. 2. 1 子豚(哺乳・離乳時子豚)の暖房設備について、お伺いします。(複数回答)



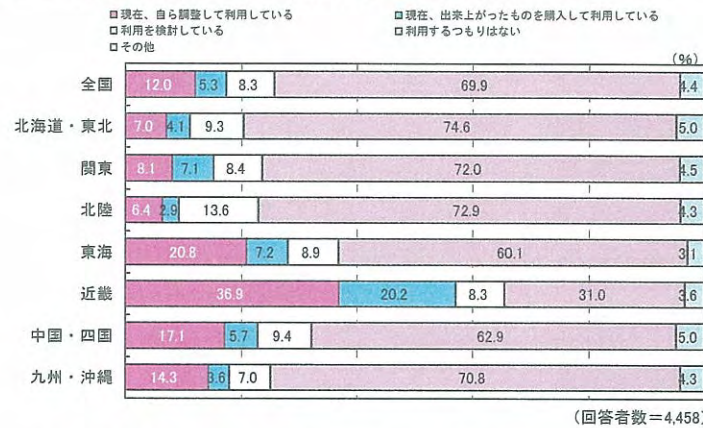
- 1 電気(赤外線電球による部分暖房)
- 2 電気(コルツヒーターによる部分暖房)
- 3 電気保温マット
- 4 床暖房(電熱線の床埋設による暖房)
- 5 ガス(ガスブローダーによる部分暖房)
- 6 ガス(熱送風式による部屋全体暖房)
- 7 床暖房(温湯式による循環暖房)

子豚(哺乳・離乳時子豚)の暖房設備では、ガスブローダーが最も多く、次いでコルツヒーター、赤外線電球と続いている。

V. あなたの経営の給与飼料の関係について、お伺いします

V. 1 (全員の方へ)リサイクル飼料(食品残さ飼料等)について、お伺いします

V. 1. 1 リサイクル飼料について、関心をお持ちですか(○印は1つ)



リサイクル飼料(食品残さ飼料等)について、全国的に見て、現在、使用している経営者が17.3%、利用を検討している経営者が8.3%で合計25.6%が利用し、今後利用を検討をしている。しかし、今後も利用するつもりはないが約70%であった。地域別に見ると、近畿36.9%、東海20.8%、中四国17.1%であり、近畿、東海の利用割合が高い。

V. 1. 2 リサイクル飼料を利用している方に、お伺いします

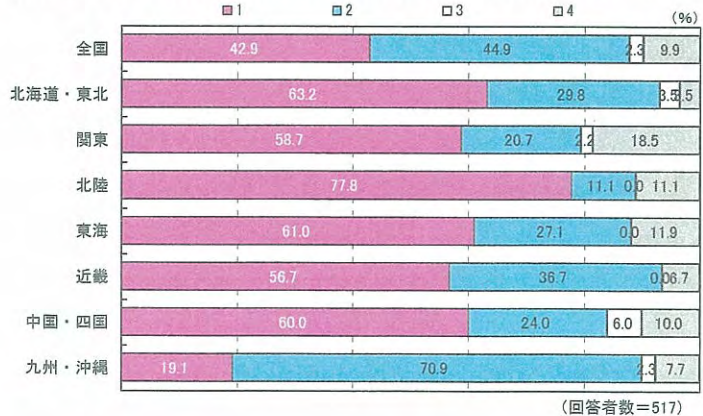
V. 1. 2. 1 配合飼料との代替割合

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
平均値	43.4	35.0	34.2	39.1	40.4	50.4	46.7	50.3
最大値	100.0	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0
最小値	0.2	1.0	0.2	1.0	1.0	2.0	1.0	0.5
回答者数	552	52	126	7	71	37	58	201

リサイクル飼料を利用している方で、代替割合は、平均43.4%となっている。

V. 1. 2. 2 ①で1と回答された方に伺います

V. 1. 2. 2. 1 リサイクル飼料の原料の主な入手先は何処ですか(○印は1つ)



- 1 食品工場(製造、加工等)
- 2 レストラン(食堂を含む)・給食センター(学校給食を含む) 病院・結婚式場・旅館・ホテル
- 3 スーパー・コンビニ・その他食品の卸又は小売り
- 4 その他

リサイクル飼料の原料の入手先は、食品工場等が42.9%、レストラン等が44.9%で全体の約90%を占めている。地域別に見ると、九州・沖縄のレストラン等からの原料入手が70.9%と高い割合になっている。

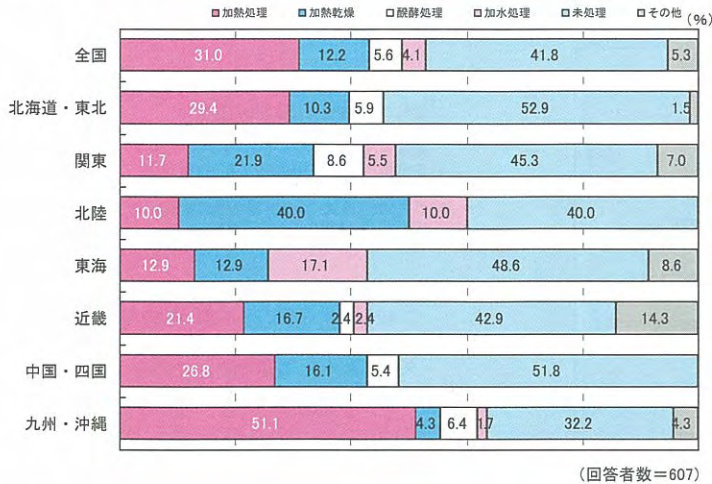
V. 1. 3 ①で2と回答された方に伺います。調達方法はどのようになっていますか  
 出来上がった飼料の購入料金(1kgあたり価格)

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
平均	26.1	43.2	29.5	22.5	18.6	16.4	18.8	28.5

出来上がったリサイクル飼料の製品価格は、26.1円であった。但し、一般飼料と比較すると高い傾向であるが、これは工場から農場までの輸送費が含まれているものと思われる。

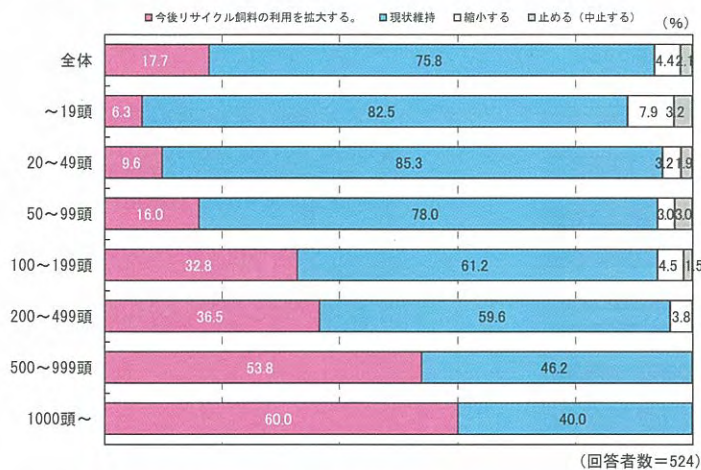
V. 1. 4 ①で1又は2と回答された方に伺います

V. 1. 4. 1 給与に当たって、どのような処理を行っていますか(○印は1つ)



給与に当たり原料の処理方法を見ると、加熱処理が31%、加熱乾燥が12.2%、醗酵処理が5.6%で処理後の給与が48.8%に対して、未処理が41.8%であった。地域別に見ると、未処理での給与は地域差はないが、その他の処理については、地域差が大きい。

V. 1. 4. 2 今後の意向について、お伺いします(○印は1つ)  
規模別



肉豚の生産コストの主体をなす飼料に着目し、リサイクル飼料の導入状況を見ると、大規模ほどリサイクル飼料の利用拡大を図る傾向にある。

V. 1. 5 リサイクル飼料を利用している方にお伺いします

V. 1. 5. 1 肉豚の出荷状況について、お伺いします

		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
日肉豚年齢(出荷)	平均値	202.8	193.8	190.8	189.8	198.8	196.0	200.5	218.2
	最大値	360.0	240.0	280.0	210.0	250.0	240.0	270.0	360.0
	最小値	150.0	165.0	150.0	160.0	150.0	170.0	150.0	150.0
	回答者数	501	44	119	9	68	39	55	167
(kg) 時の豚体重(出荷)	平均値	112.0	113.1	112.8	109.1	113.4	113.8	112.3	110.1
	最大値	140.0	140.0	140.0	115.0	130.0	120.0	135.0	140.0
	最小値	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	90.0
	回答者数	498	43	119	8	68	38	55	167
(kg) 枝肉重量	平均値	74.1	74.8	74.1	71.6	74.2	76.2	72.7	74.1
	最大値	105.0	105.0	82.0	75.0	80.0	84.0	90.0	90.0
	最小値	60.0	66.7	60.0	65.0	70.0	72.0	64.0	60.0
	回答者数	499	42	120	9	70	39	53	166

リサイクル飼料給与の肉豚出荷日齢は、202.8日齢であり、一般肉豚と比較して8.5日多くかかっている。

肉豚出荷時体重及び枝肉重量は、一般肉豚と同傾向にあった。

V. 1. 5. 2 豚肉の肉質について、お伺いします(複数回答)

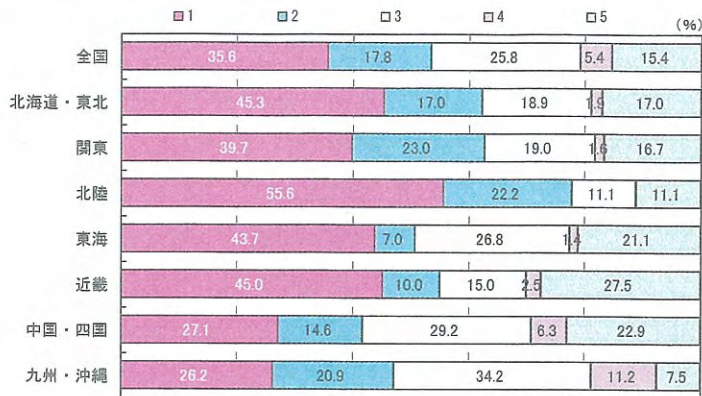


- 1 脂肪は適量で、赤肉量も多い
- 2 脂肪が多く、赤肉量が少ない
- 3 脂肪の質が良く枝肉の締まりが良い
- 4 軟脂で枝肉の締まりが悪い
- 5 脂肪色がやや黄色である
- 6 豚肉の風味が悪い
- 7 その他

豚肉の肉質を見ると、脂肪は適量で、赤肉が多いが48.9%、脂肪の質が良く枝肉の締まりが良いが47.3%であった。地域別においても同様の傾向であった。

リサイクル飼料の成分分析を行い、成分の把握をすることにより、さらに肉質の向上が図れるものと感じられる。

V. 1. 5. 3 豚肉の販売について、お伺いします(○印は1つ)

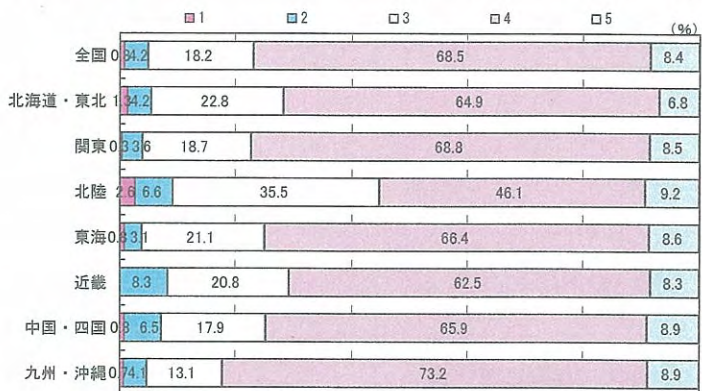


(回答者数=534)

- 1 豚肉の品質が良いので有利に販売できている
- 2 銘柄豚肉として有利な販売をしている
- 3 豚肉の品質が揃わないので販売価格が低い
- 4 リサイクル飼料を使用しているため、販売に苦慮している
- 5 その他

豚肉の販売を見ると、品質が良く有利に販売しているが35.6%、銘柄豚肉として有利な販売が17.8%に対して、販売価格が低い25.8%、販売に苦慮が5.4%であった。

V. 1. 6 (①で3~5と回答した方)リサイクル飼料を利用していない方に、今後の意向をお伺いします(○印は1つ)



(回答者数=2,091)

- 1 利用したいので既に準備を始めている
- 2 利用について検討をしている
- 3 機会があれば利用について検討したい
- 4 利用は考えていない
- 5 分からない

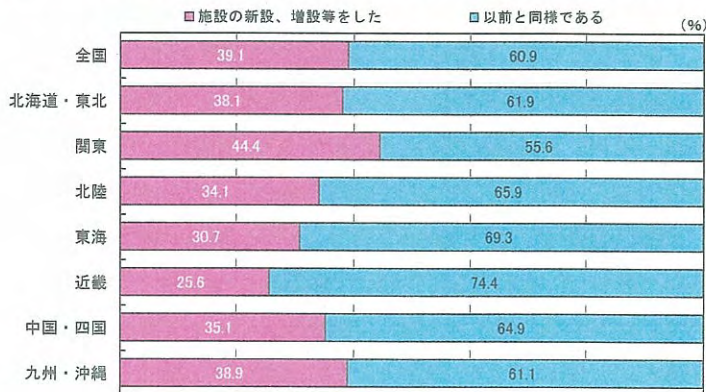
今後の意向を見ると、利用について準備をしている、または検討しているが5.0%に対して、利用について検討をしているが18.2%、利用は考えていないが68.5%を占めている。

(全国の設定1の値は0.8%)

VI. あなたの経営の家畜環境関係について、お伺いします

VI. 1 (全員の方へ)あなたのふん尿処理施設について、お伺いします

VI. 1. 1 平成15年度以降のふん尿処理施設の変更について、お伺いします(○印は1つ)



(回答者数=4,507)

平成15年度以降の糞尿施設整備を見ると、施設の新設が39.1%、以前と同様が60.9%であった。

VI. 2 あなたの農場の堆肥生産について、お伺いします

VI. 2. 2 1ヶ月当たりの堆肥の生産量(トン/月)

	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
平均値	37.1	44.2	27.0	27.7	26.2	45.0	33.9	44.0
最大値	4,300.0	900.0	900.0	300.0	600.0	813.0	500.0	4,300.0
最小値	0.1	0.1	0.1	1.0	0.1	0.2	0.1	0.1
回答者数	3,085	570	827	118	197	56	200	1,117

VI. 3 (全員の方へ)農場で生産された堆肥について、お伺いします

VI. 3. 1 堆肥の販売形態と販売単価について、お伺いします

VI. 3. 1. 1 袋詰め

	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
単価(円/袋)	247.0	303.4	296.5	266.7	147.9	226.5	192.7	216.8
1袋あたり内容量(kg)	17.0	15.8	16.9	17.5	15.8	17.7	17.1	17.9
回答者数	506	67	161	26	47	17	43	145

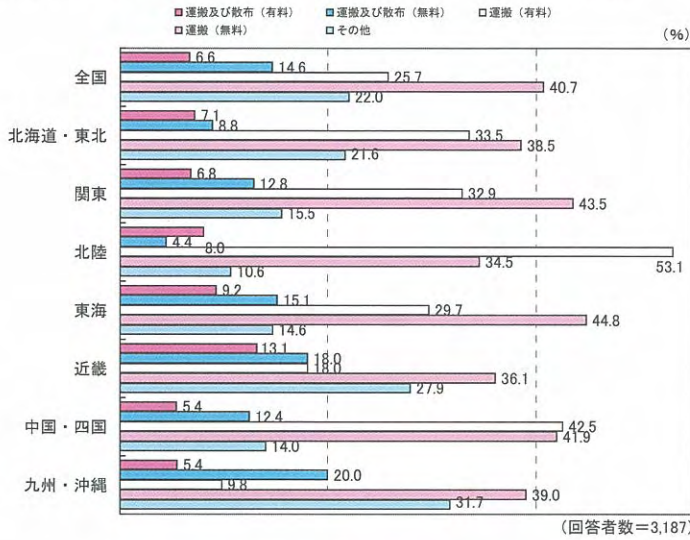
製品は、袋詰め17.0Kg当たり247円であるが、10kgあたりに換算すると145円になっている。

VI. 3. 1. 2 ばら売り

	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
単価 (円/袋)	3,634.3	3,774.7	4,838.9	2,253.0	2,101.4	2,661.0	3,103.4	2,935.0
1 軽四輪	13.2	8.7	13.5	6.0	10.7	41.7	15.1	17.1
2 2トン車	67.6	68.2	76.1	86.9	71.4	33.3	59.4	51.4
3 4トン車	6.7	9.3	4.0	1.2	6.4	4.2	10.4	9.3
4 その他	12.5	13.7	6.4	6.0	11.4	20.8	15.1	22.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数	1,625	321	594	84	140	24	106	356

ばら売りでは、2トン車当たり3,364円になっている。

VI. 3. 1. 3 農場で生産された堆肥の販売について、お伺いします(複数回答)



堆肥の販売等についてみると、運搬で無料が40.7%、運搬で有料が25.7%、運搬・散布で無料が14.6%、運搬・散布で有料が6.6%であり、有料が32.3%に対して無料が55.3%であった。

VI. 4 (全員の方へ)ふん尿処理施設の整備費について、お伺いします

VI. 4. 1 固液分離の場合

	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
浄化処理施設	2,612.4	3,905.3	2,506.2	1,922.8	1,995.6	2,782.6	2,092.3	2,542.0
堆肥化施設	1,814.6	2,842.8	1,811.5	1,406.8	1,754.4	1,881.7	1,928.1	1,332.6

ふん尿処理施設の整備費は、固液分離の場合、浄化処理施設費2,612万円、堆肥化施設費1,815万円

VI. 4. 2 ふん尿処理施設のランニングコストの月額について

	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1)光熱費	42.8	136.5	16.4	18.5	23.3	11.5	26.5	40.0
2)メンテナンス代	10.4	18.7	7.7	10.1	13.5	6.8	12.4	7.7
合計	53.2	155.2	24.1	28.6	36.8	18.4	38.9	47.7

ランニングコスト/月は、53.2万円である。

VI. 4. 3. 1 子取用雌豚1頭当たりの年間ランニングコスト

地域別	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1)光熱費	3.93	1.66	2.10	2.10	2.12	3.26	12.96	5.51
2)メンテナンス代	0.94	1.08	0.80	1.47	1.48	1.31	0.90	0.75
合計	4.86	2.74	2.90	3.57	3.60	4.57	13.86	6.26

子取用雌豚1頭当たりの年間ランニングコストは48,600円である。

VI. 4. 3. 2 肉豚出荷頭数1頭当たりの年間ランニングコスト

地域別	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1)光熱費	0.23	0.10	0.12	0.12	0.12	0.19	0.76	0.32
2)メンテナンス代	0.06	0.06	0.05	0.09	0.09	0.08	0.05	0.04
合計	0.29	0.16	0.17	0.21	0.21	0.27	0.82	0.37

肉豚出荷頭数1頭当たりの年間ランニングコストは、2,900円である。  
(算出方法:子取用雌豚1頭当たりの年間ランニングコスト48,600円÷1腹当たり肉豚出荷頭数17頭)

VII. 将来の養豚産業発展のための組織について

VII. 1 (全員の方へ)将来の養豚産業発展のため(仮称)日本養豚生産者協議会を設立し、全国組織を立ち上げることに、お伺いします。

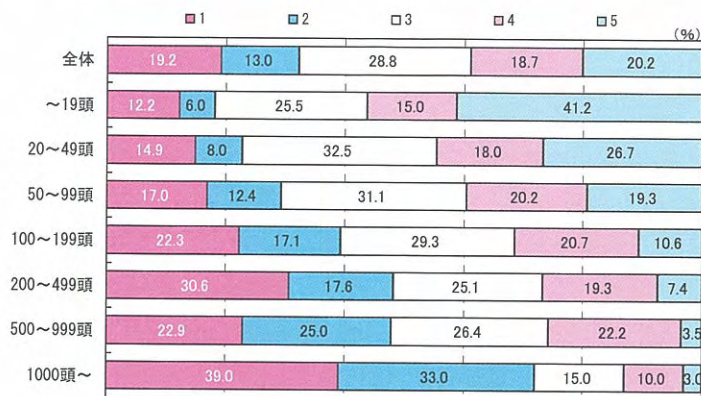
VII. 1. 1 新しく設立予定の(仮称)日本養豚生産者協議会についてお伺いします  
地域別



- 1 設立について、説明を受けたことがある
- 2 専門誌等で読んだことがある
- 3 養豚仲間等から聞いたことがある
- 4 まったく聞いたことはないが、知りたいので資料がほしい
- 5 まったく聞いたことはない、知りたくない

「仮称」日本養豚生産者協議会の設立予定について見ると、設立について説明を受けた、また何らかの方法で情報等を聞いたことがあると答えた方が60.9%、知りたいので資料がほしいが18.5%、知りたくないが20.7%であった。

規模別



(回答者数=3,776)

- 1 設立について、説明を受けたことがある
- 2 専門誌等で読んだことがある
- 3 養豚仲間等から聞いたことがある
- 4 まったく聞いたことはないが、知りたいので資料が欲しい
- 5 まったく聞いたことはないし、知りたくもない

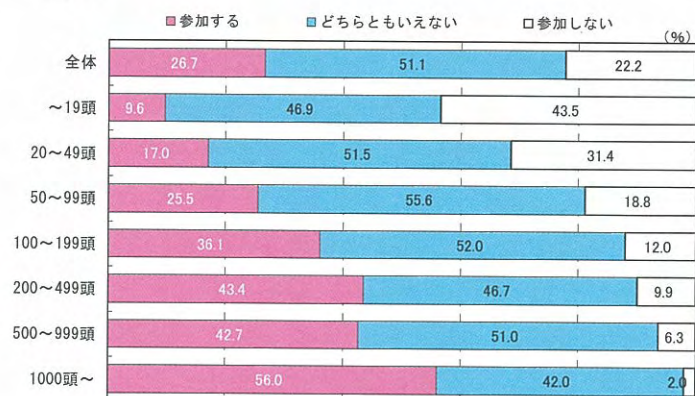
VII. 1. 2 (仮称)日本養豚生産者協議会が設立された場合、参加しますか  
地域別



(回答者数=4,257)

「仮称」日本養豚生産者協議会が設立されたら場合、参加しますかについて、4,257戸のうち参加するは26.1%である。  
どちらともいえないが50%で、将来の動向を見る様子が伺われる。

規模別



(回答者数=3,842)

「仮称」日本養豚生産者協議会が設立されたら場合、参加しますかについて、3,842戸のうち26.7%が参加すると回答している。  
また、規模別に見ると、大規模ほど高い参加率となっている。  
逆に、参加しないは大規模ほど低率である。